

「全港湾第56期中央労働講座報告書」

全港湾香川県支部
書記長 糸川 智也

6月12日～14日にかけて開催されました全港湾第56期中央労働講座に参加させて頂きました。第1講座として鈴木誠一中央執行委員長から「全港湾の歴史」という議題で受講しました。全港湾の結成時の時代背景であったり、戦後の港湾労働はGHQ支配下のもと全国的な中央労使交渉の場を失ったり、その時代時代で様々な混乱の中、先人達は決して屈せず戦って来た事。今の全港湾があるのもその礎を築いてこられた先人達の汗と涙と粘り強く我慢強い交渉、勝ち取ってきたからこそなんだと改めて思わされました。

また、終戦間際の社会運動や労働運動のなかに「米よこせ」運動というものがあった事。時代背景は異なりますが、まさに今の現代に起こっている米不足と相通ずるものがあり、そのような事からも時代と言うものは繰り返されているのだとすごく感じる部分がありました。

第2講座として全国港湾の玉田書記長から「産別協定と事前協議制度」という議題で受講しました。本年2025年は昭和100年、戦後80年と一つの区切りを迎える年でもあります。80年前を境に労働組合が否定された時代から擁護される時代になった事も分かりました。我々労働者の生存・安全と安定的生活を維持・向上させる社会的機能を維持していく上で港湾産別協定の重要性や必要性がどれだけ大事であるかが分かりました。事前協議制度確立の原点であったり意義と運営方法などについても、時代の流れと共に船舶の大型化、特殊構造船、荷役道具の機械化などそれに対応する荷役形態であったり作業人員数も変化してきており、同時にその事で雇用問題が発生しないようにしなければならない事も大変勉強になりました。

第3講座として鈴木龍一中央本部副委員長から「組織強化、役員、組織運営はどうあるべきか」という議題で受講しました。労働組合の役割・任務について。また、全港湾の取り組みであったり組織強化・組合員のモチベーション強化・健全で対等な労使関係の構築などを学ばせて頂きました。若い世代の組合離れの内容も出てきましたが、我々が生活している地方ほど都市部への転居や移住と人口減少が起こっており、同時に雇用の面でも募集しても入って来ない。離職者が出たりと厳しい状況が続いています。そのような中で若い世代ほど組合に対する意識低下を痛感しています。我々役員が次世代に引き継いでいく事。それも今後の我々に課された課題であると思っています。

今回の労働講座では沢山の事を学ばせて頂きました。3日間という短い時間ではありましたが、全国から受講された各分会・支部の役員や執行委員とのグループ討論、レクレーション、そして懇親会などを通じて情報交換や意見交換を行い仲間意識や団結力がより強くなった事。それはやはり場所や地域、それぞれが抱えている問題は違えど、目的に向かって汗をかき闘っている同じ労働者でありみんなが全港湾というひとつの大きな組織の一員である事の表れではないかと強く感じました。今労働講座での内容は支部内でもしっかり報告し共有しながら執行部はじめ組合員へもしっかり発信していきたいと思います。最後に全港湾中央執行部の皆様、そして第56期受講者の皆様、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。